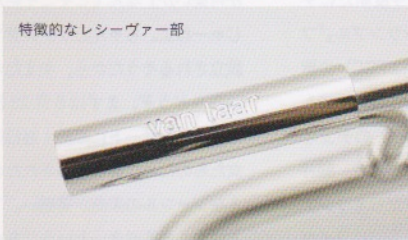
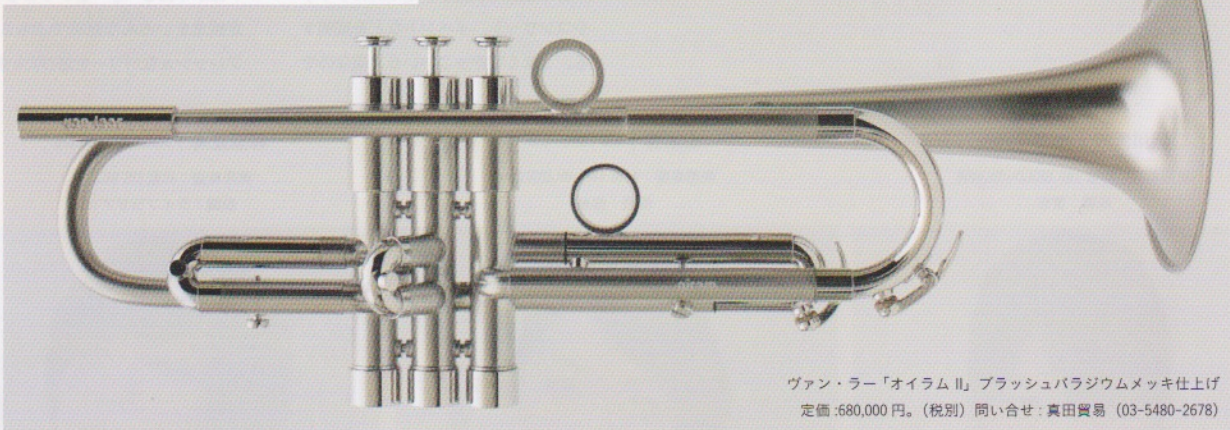


特徴的なレシーヴァー部

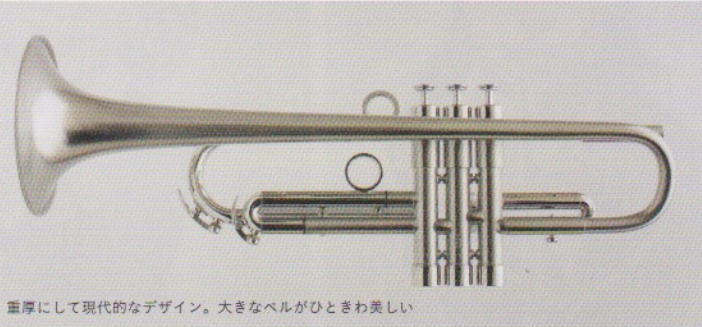


## O I R A M オイラムの意味



ヴァン・ラー「オイラム II」ブラッシュパラジウムメッキ仕上げ  
定価:680,000円。(税別) 問い合わせ:真田貿易 (03-5480-2678)

がっちりした指掛けリングと、洗練されたデザインの  
ヴァルヴキャップ



重厚にして現代的なデザイン。大きなベルがひとときわ美しい

今、楽器族からの熱い視線を集めているのが、オランダ発のメーカー、ヴァン・ラー (van larr) です。昨年9月に東京で行われた説明会(写真参照)には多数の有名プロ奏者が駆けつけ、注目の高さを裏付けました。

ヴァン・ラーはドイツ、フランス、ベルギーに隣接したマーストリヒトに工房を構え、ベルはもちろんのこと、ヴァルヴを含めた全てのパーツを自社で製作する気鋭のメーカーです。自らの手でトランペットを製作したいという長年の夢を実現させようとマイスターとなるべくドイツへ渡り、ワーキングホリデーを利用してアメリカの有名大手メーカーでも修行。しかし、1人が楽器全体を製作するのではなく、割り当てられたパーツの製作を1日中やり続ける、という大手メーカーの仕事は自分の求めるものではないと感じ、シュトゥットガルトにある2~3人程度の楽器メーカーに勤めます。小規模のメーカーにいたことで様々なことを学び、1990年にリペア工房として独立。ついにトランペットを製作するように、現在は計14人が家族のように信頼し合いながら製作に従事しているといえます。

その説明会において、最も人気を集めたのがオイラムというモデルでした。東京だけでなく、大阪でも大好評だったこのオイラムは、ベルギーの

建築家でトランペットを演奏するマリオ・ガッツァニーティと開発されたヴァン・ラーの主力モデルです。モデル名のオイラムの語源は、なんとマリオ (MARIO)。逆さ読みになると、OIRAM となります。もともとはガッツァニーティがヴァン・ラーの楽器を気に入ったものの、外観のデザインに不満をもちたことをきっかけに開発は始まり、外観の設計をガッツァニーティ、音響的な設計をヴァン・ラーが行ったことで実現したといえます。

特徴的なマウスピースレシーヴァーに、重量感のあるフィンガーリングやヴァルヴキャップ...と、非常に独創性のあるデザインですが、楽器自体は意外にも柔軟性があり、クラシカルにも JAZZY にも吹くことができます。オイラムはトランペット、フリューゲルホルンともに用意されており、それぞれ3つのモデルが開発されています。トランペットはオイラム I から製作が開始されたといひ、オイラム II は1月に来日を果たしたアルトゥロー・サンドヴァルのために、オイラム III はスウェーデンのジャズ奏者ポー・スタンドバーグのために設計されています。ベルの形状とヴァルヴケーシングに違いがあり、抵抗感やサウンドはどれも異なりますが、写真のオイラム II が最も人気を集めているといえます。そし

て、フリューゲルホルンには84歳になるオランダのジャズ奏者アック・ヴァン・ルーエンのモデル、3月に来日公演を行ったイタリアのジャズ奏者パオロ・フレスのモデル、そしてアルトゥロー・サンドヴァル・モデルの3タイプがあります。フリューゲルホルンは特に人気が高く、ヴァン・ラーによるとオイラムのフリューゲルホルンを気に入ったために、トランペットの演奏をやめてしまったプレーヤーさえいるといえます。

「トランペットは奏者自身の感情を表現するための道具。だとすると、直感的に良いものを選ぶべきで、数ヶ月をかけて楽器に慣れるということではない」と説明会でヴァン・ラーは語りました。たしかに、直感的に選ぶ楽器族が続出しているのかもしれない。

(文:吉野和孝 ジョイブラス)



大きな話題を呼んだ東京「ジョイブラス」でのヴァン・ラー氏の説明会 (通訳:木村小百合)